

北尾 哲也 氏の学位審査結果の要旨

主査：塩島 一郎

副査：伊藤 誠二、松田 公志

小児期の繰り返す有熱性尿路感染症は間質の線維化を主体とする腎癒痕をきたし末期腎不全に至ることもあるが、腎癒痕の診断は現在 RI を用いたシンチグラフィを用いて行われており、すべての有熱性尿路感染症患者で検査をすることは困難である。申請者らは複数の腎障害のバイオマーカーのなかから、尿中アンジオテンシノーゲンが腎癒痕を有する患者群で優位に高く、また、腎癒痕の重症度と相関することを見出した。熱性尿路感染症に伴う腎癒痕の新たなバイオマーカーを明らかにした本研究は臨床的に極めて有用であり、また、尿中アンジオテンシノーゲンの増加は腎臓組織内でのレニン・アンジオテンシン系活性化を示すことから、腎癒痕の病態を解明するうえでも意義のあるものと考えられる。